

みんなのしあわせをつくる市民後見

—人生100年社会の現状と市民後見人の役割—

牧野 篤
(東京大学大学院教育学研究科)

市民後見人による新しい社会づくり



市民後見文化の普及



市民後見人



地域コミュニティ後見実装プロジェクト



コミュニティ意思決定支援プロジェクト

成年後見「3つの基本理念」

*** 自己決定の尊重**

*** 残存能力の活用**

*** ノーマライゼーション**

**基本的視点：「はざま」を埋める
寄り添い、支える**

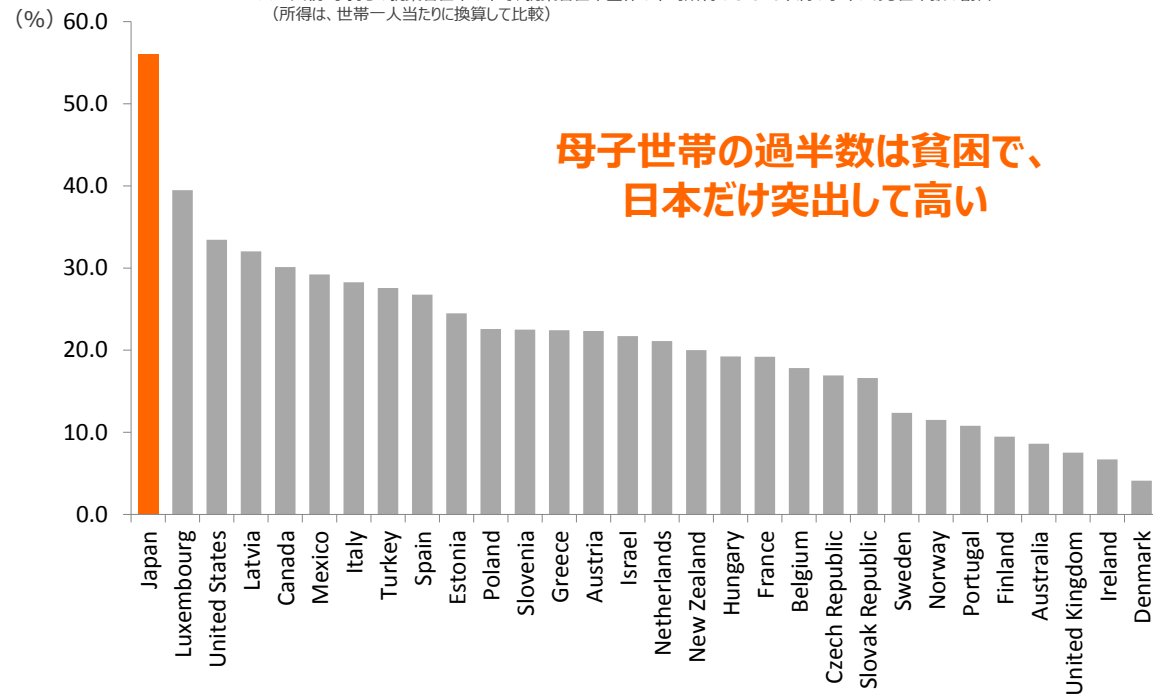
1. 深刻な子どもの貧困

子どもの貧困

日本の母子世帯の貧困率は世界でも突出して高い

OECD各国の一人親・子持ち就業者世帯の貧困率※

※一人親・子持ちの就業者世帯の中で、就業者世帯全体の平均所得の50%未満の水準にある世帯数の割合
(所得は、世帯一人当たりで換算して比較)



(出典) OECD Family Databaseより経済産業省作成

27

子どもの
相対的貧困率：17%
ひとり親家庭：57%

「子ども食堂」
5000力所

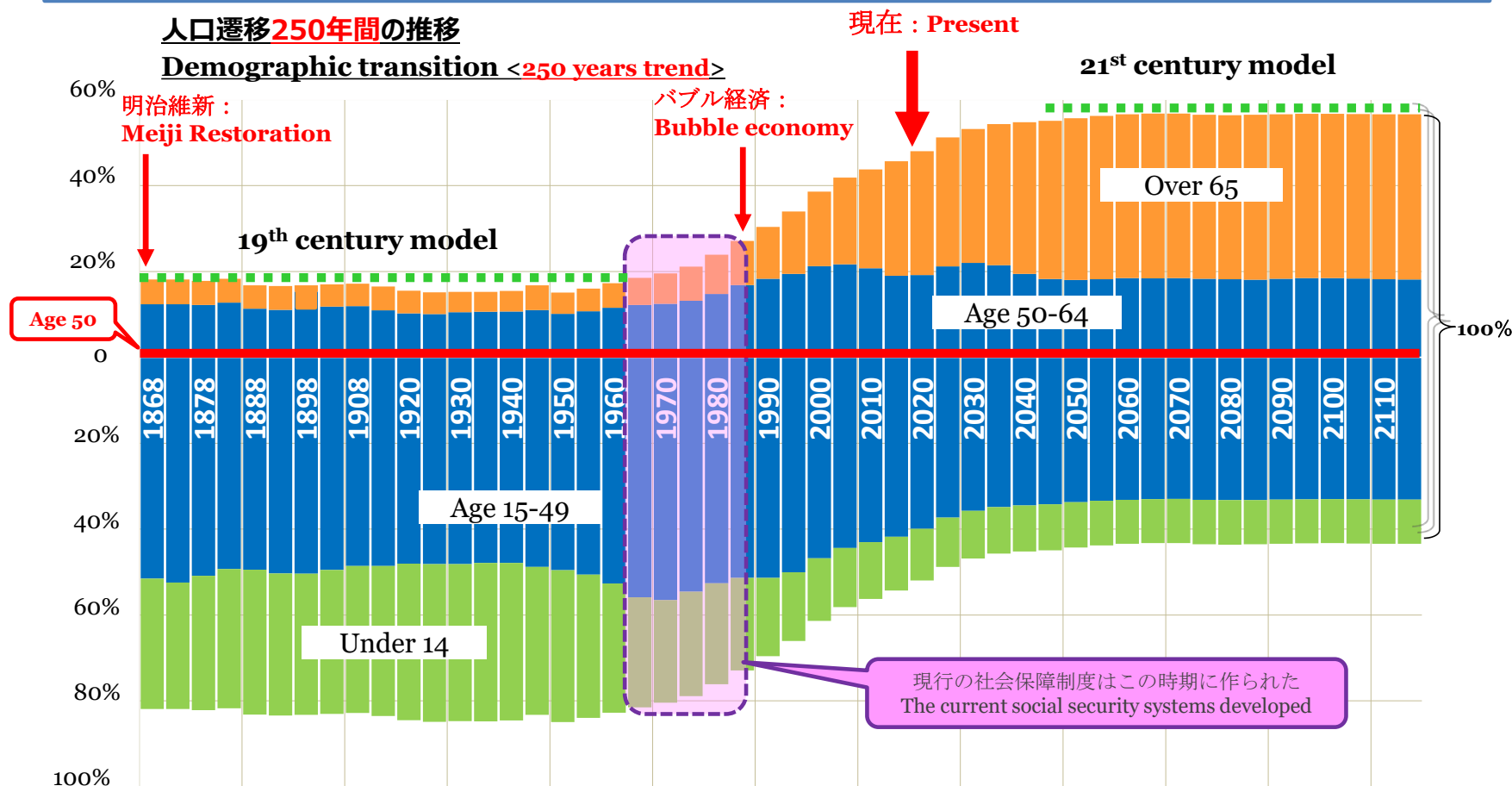
**貧困は、学校教育を通して、
世代間で再生産される**

**⇒どこに楔を打ち込み、
悪循環を止めるのか**

2. 少子高齢人口減少社会は悪いのか？

人口構造の遷移 Japan's demographic structure & transition

- There has been a **major shift in the population structure** from the 19th to the 21st century.
- It will be **impossible** to maintain the **social security systems** established in 1960-80s.



Source: Sensus, Okazaki estimate, National Institute of Population and Social Security Research 2017 estimate

© T Hasegawa RIFH. Japan

UN Estimate2017

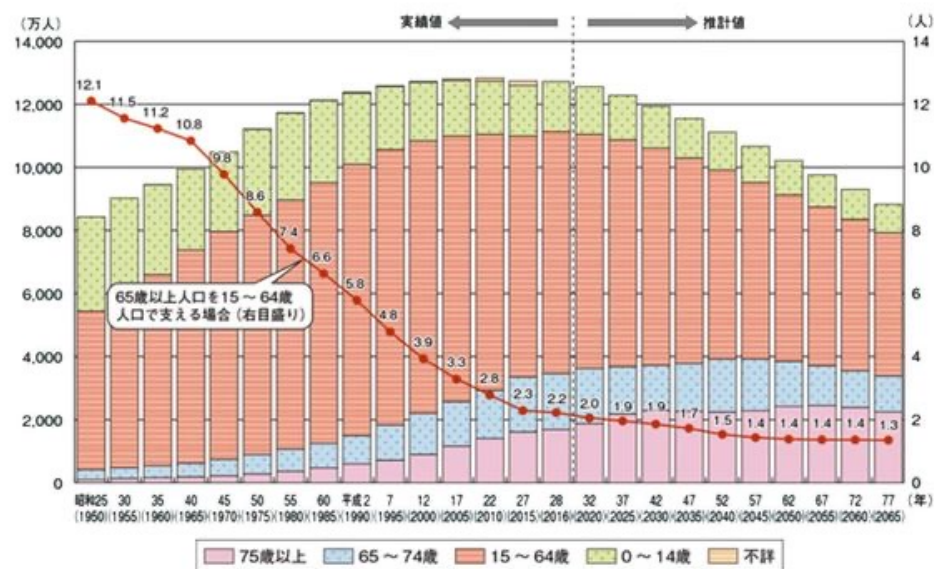
**少子高齢人口減少社会
(悲観論)
から
人生100年社会へ
(希望論)**

**高齢者への対応から
子どもたちを主役に
持続可能な社会をつくる**

3. 心配なこと：若者たちの負担が増える

生産年齢人口(15歳から64歳)2人で1人の高齢者を支えている
 ⇒実際の就労率は75%ほど = 1.5人で1人の高齢者を支えている

図表1 高齢世代人口の比率



資料：2015年までは総務省「国勢調査」、2016年は総務省「人口推計」（平成28年10月1日確定値）、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
 （注）2016年以降の年齢階級別人口は、総務省統計局「平成27年国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口（参考表）」による。年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。
 （出所）平成29年版高齢社会白書

●更に進む若者負担●

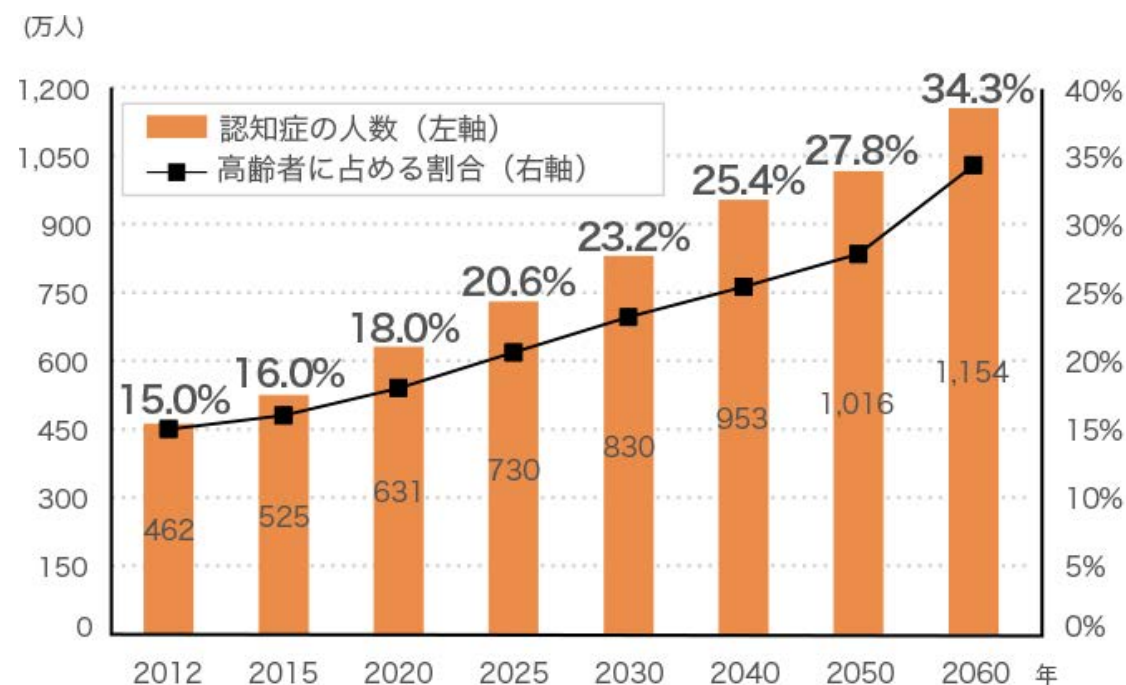


<https://president.jp/articles/photo/31850?pn=2>

https://www.zeal-conductor.co.jp/fear_401k/

認知症高齢者数：
2012年に462万人
高齢者に占める割合15パーセント
予測では
2025年に730万人、20.6パーセント
2060年には1154万人、34.3パーセント
総人口の13パーセントを占める

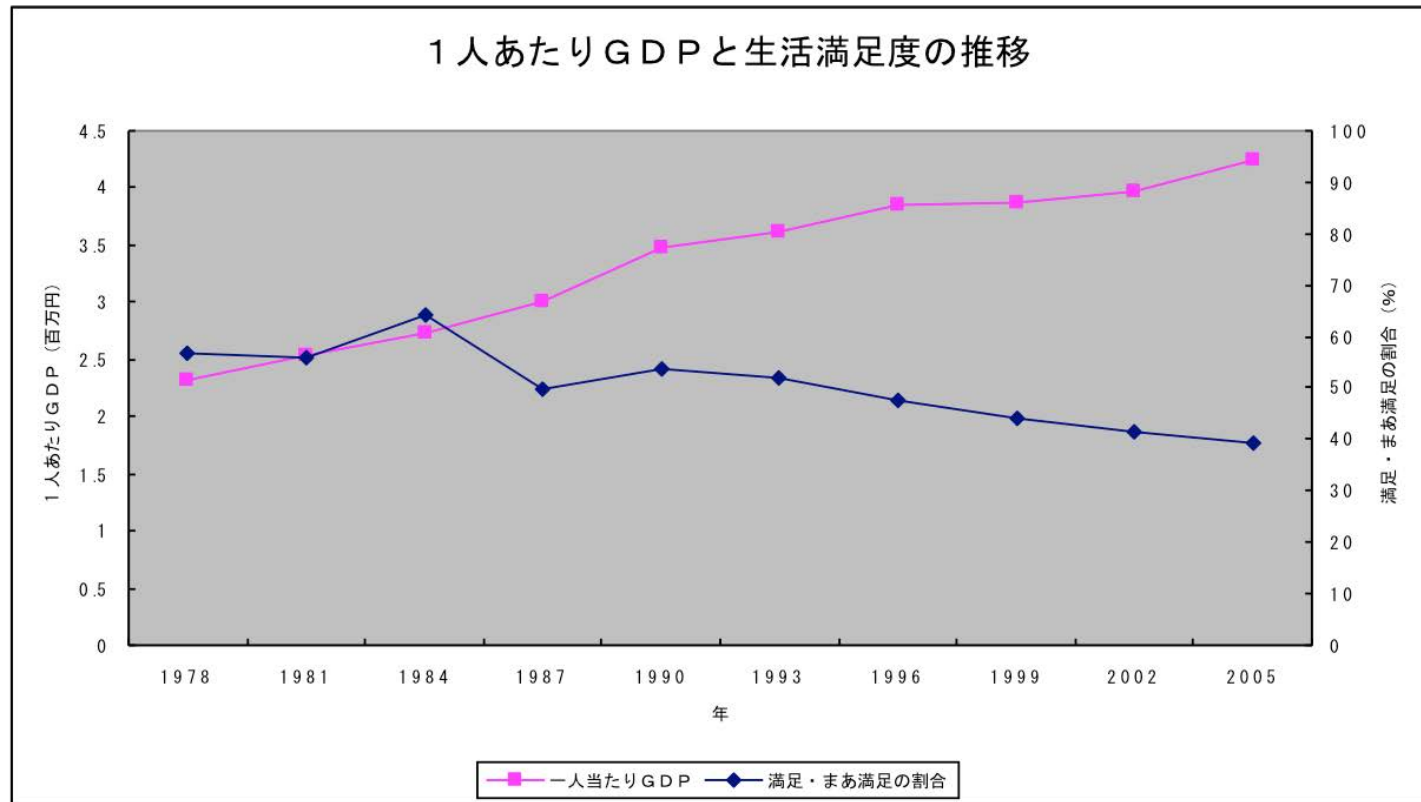
MUFG「認知症の現状と将来推計」、
<https://www.tr.mufig.jp/shisan/mamori/dementia/>(2019年9月9日閲覧)
厚生労働省オレンジプランの推計



<https://www.tr.mufig.jp/shisan/mamori/dementia/02.html>

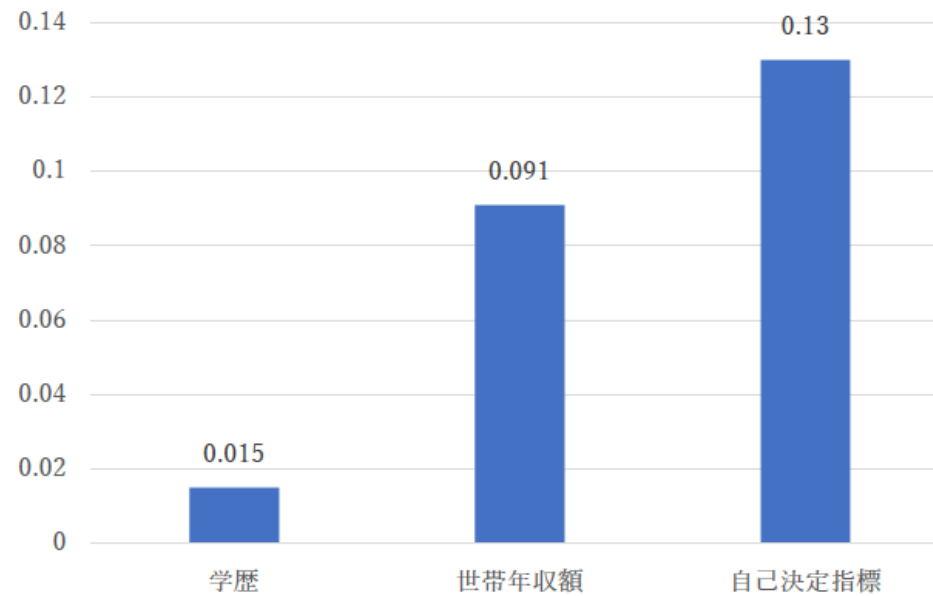
4. 問題設定が問題

イースタリンの逆説 (Easterlin paradox)



https://www.ishes.org/project/responsible_econ/happiness_econ/paradx_happiness.html

主観的幸福感を決定する要因の重要度（標準化係数）



西村和雄・八木匡「幸福感と自己決定—日本における実証研究」

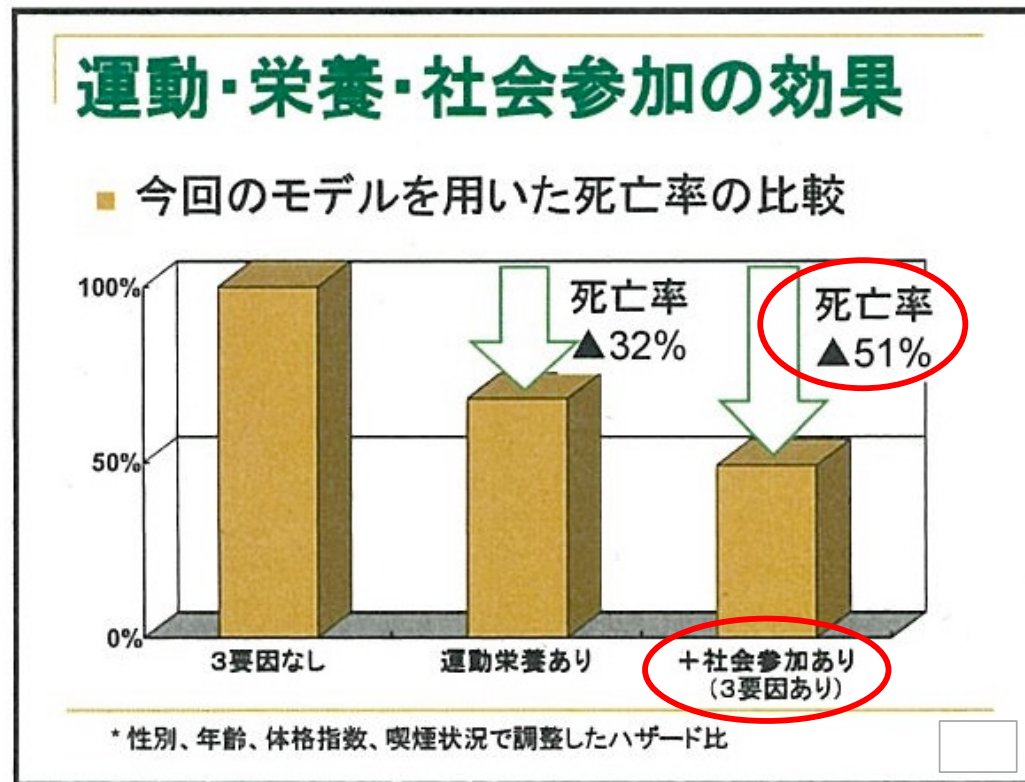
<https://www.rieti.go.jp/jp/publications/nts/18j026.html>

5. 大切な「認められること」

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】

○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

高齢者の認知能力の加齢に伴う変化

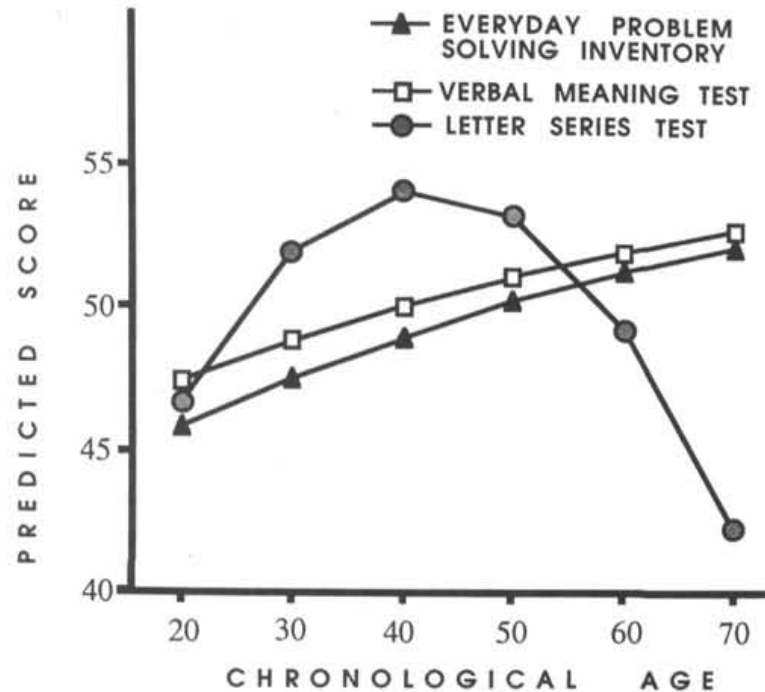


Figure 1. Regression lines displaying predicted levels of performance on ability tests as a function of chronological age. (Ability performance is measured in standardized T scores [$M = 50$, $SD = 10$].)

短期記憶は低下する

言語能力と日常生活問題解決能力は
伸び続ける

言語能力と問題解決能力は
人間関係に依存する

Cornelius, S. W., and Caspi, A., 'Everyday problem solving in adulthood and old age', *Psychology and Aging*, Vol2(2), Jun1987, p.150 Figure1

6. 子どもに必要な相互承認と対話的学び

**話せばわかってくれるという信頼感が
自己肯定感を強める**

社会に居場所ができる

⇒子どもが自分から貧困から抜け出そうとする

自律・自立しようとする

関係の貧困

認知

学力

生活習慣・リズム

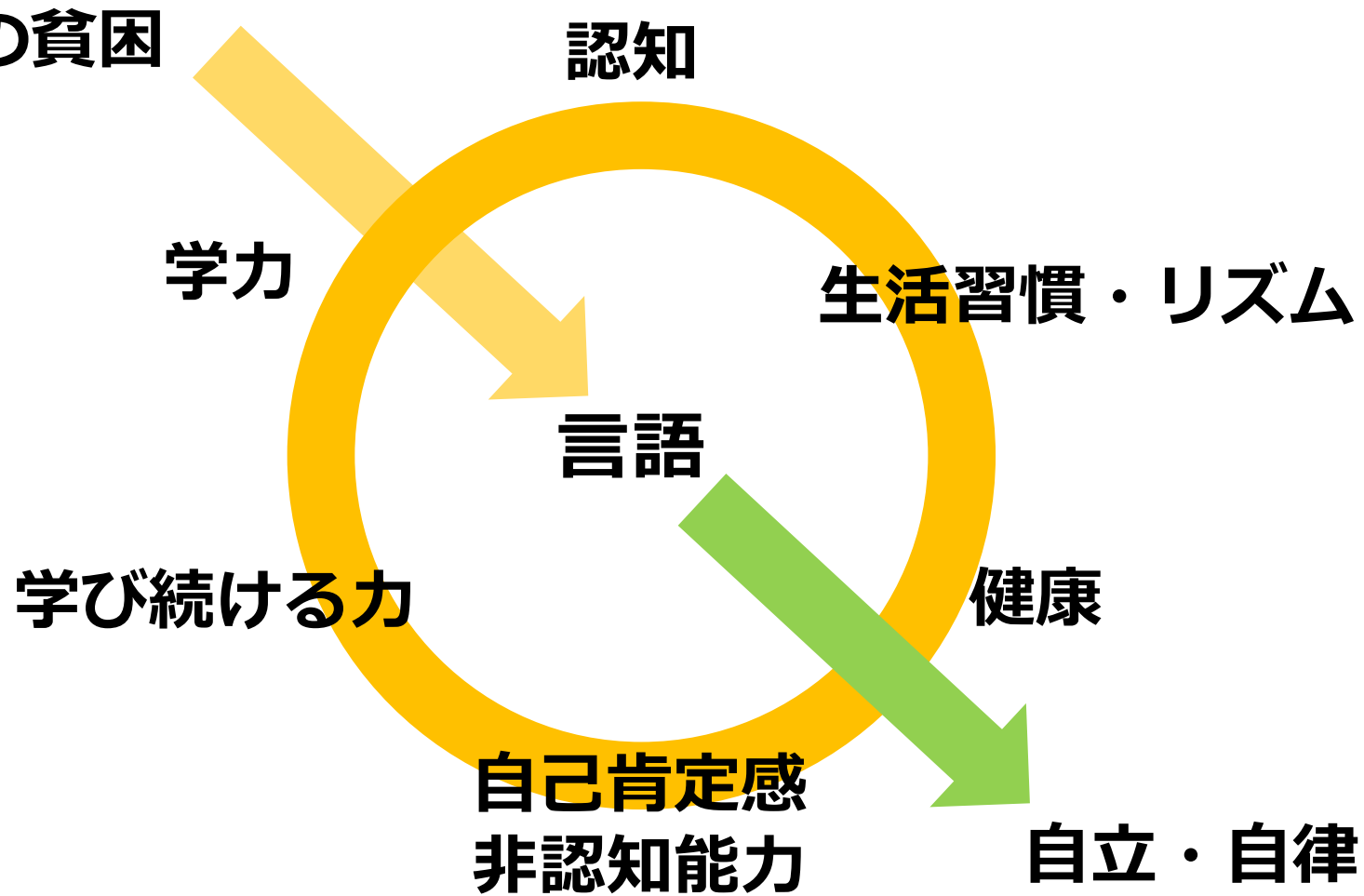
言語

学び続ける力

健康

自己肯定感
非認知能力

自立・自律



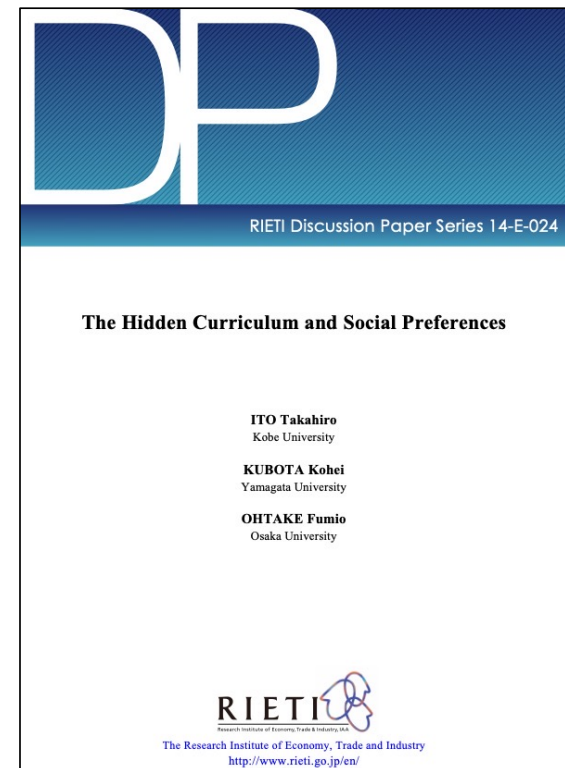
安心して、好奇心を発揮できる

**安心して、自分は自分だといえる
人と違っていることが自然だと思える**

認めてもらえる関係

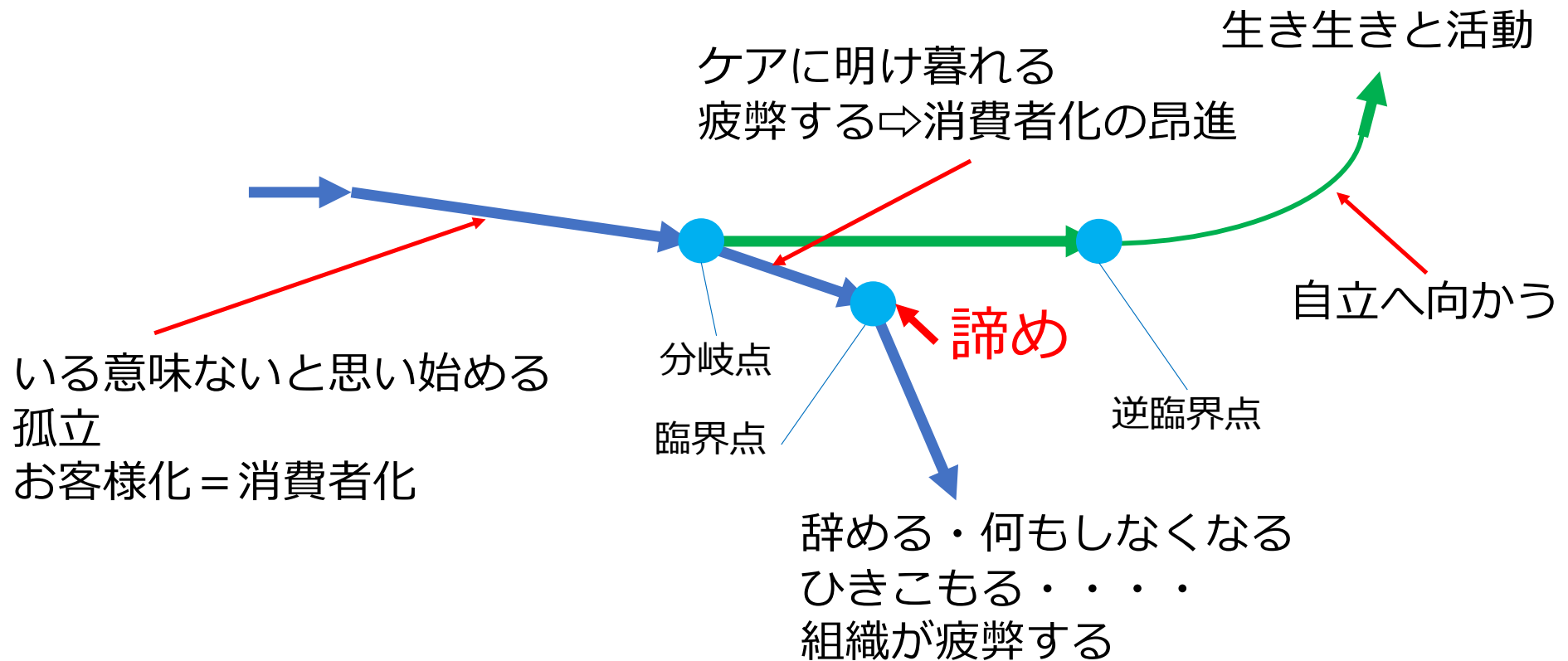
小学生時代にボランティアなどの 経験を積んだ者は社会貢献意識が高まる

参加・協力を経験した子どもは、
他者のために行動することを好み、
利他性と互惠性が高まり、
他人への協力を好み、
国への誇りを持つようになる傾向がある



7. 認めあう関係をつくる「場」
⇒ 〈ちいさな社会〉をつくる

人と組織の「限界化」プロセス



「諦め」が人を壊し、社会を壊す

「諦め」ないためには「認められること」が大切

「認められること」のためには、「認めあうこと」が大切

「認めあうこと」を基本に地域社会をつくる

(1)「関係」「つながり」がものをいう

少子高齢人口減少社会を「関係」から考える

集落を消滅の危機から救う「自給家族」



「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

一般社団法人押井営農組合



誰も損も得もしない、みんなが 少し幸せになる「自給家族」

ここがポイント

- ① 集落が家族になる ⇒ 新たな家族を増やす
- ② 地域まるっと中間管理方式 ⇒ 現代の庄屋
- ③ 新たな消費志向 ⇒ 食の「自給」と安心感
- ④ 山村集落の存続 ⇒ 美しい農村景観を守る



ゆるゆると、楽しんで集落を守る！

(2) 多世代交流型のまちづくり

大都市近郊の「限界団地」

施設に入らず一生安心

綺麗に老いる

いつまでたっても好奇心を持って

ボランティアは新しいシニア世代のた
しなみ

「わたし」は木で、
「わたしたち」は森。
この森に、
多くの木が育つことを願います。

「タマゴ」プロジェクト

タマゴ＝他＋孫(よその子を孫にしよう)
そうすると
多＋孫(地域の子ども全体が自分の孫になる)



(3)都市部の空き家を開放する

「住み開き」：

自分の空間をちょっと開いて、公共空間にする

(財)世田谷トラストまちづくり：

「地域共生のいえ」

岡さんのいえTOMO



定期的な居場所をつくる / 開いてるデーカフェ & 駄菓子屋



定期的な居場所をつくる / 開いてるデーカフェ & 駄菓子屋



(4)新しい発想で
ーアートを重ねる
(沖縄県那覇市若狭公民館)





こども食堂



移動図書館／那覇市立若狭図書館



パーソナルサポートセンター



まちづくり協議会・小学校・PTA

地域主体で 活動継続



コロナ禍における屋外での地域交流企画として月に一回開催



8. 〈ちいさな社会〉づくりの意味

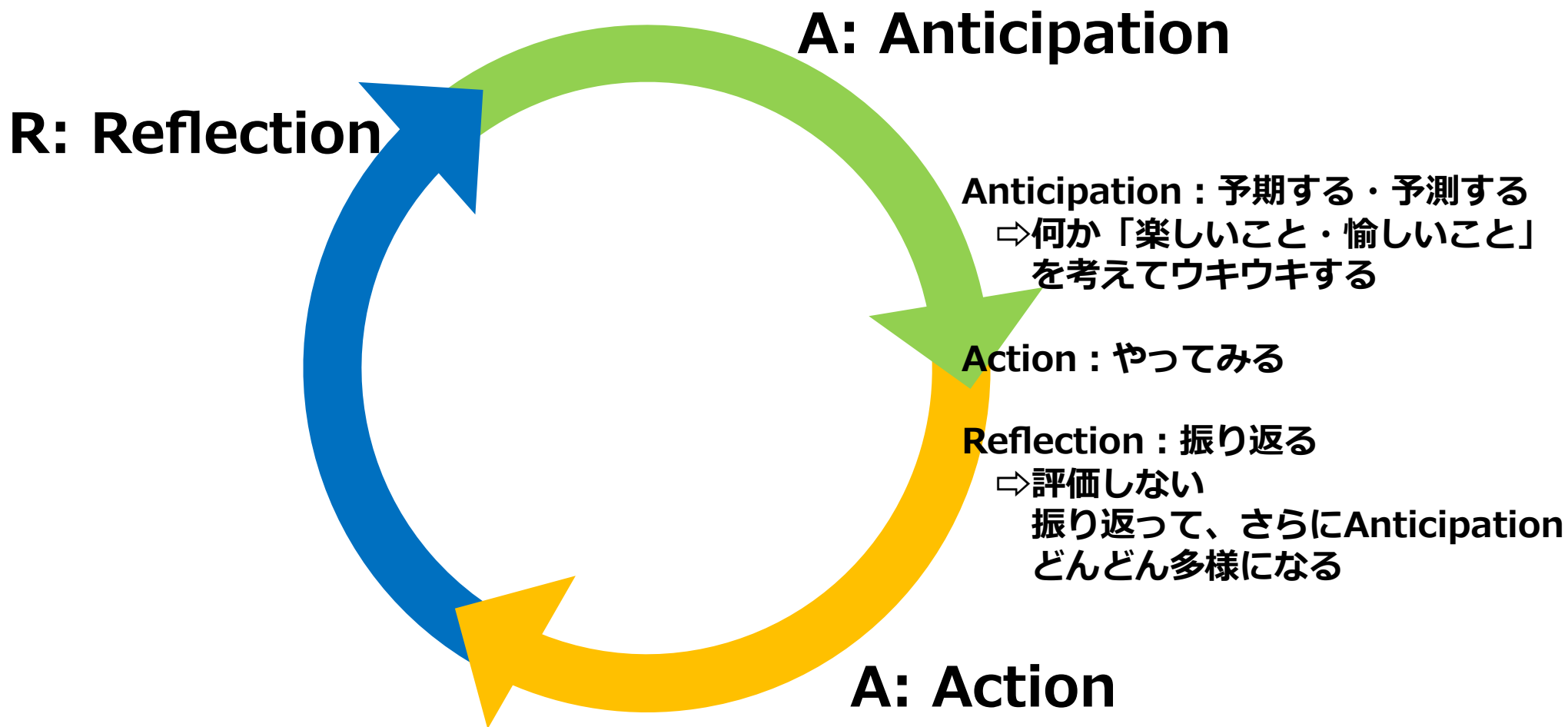
**〈ちいさな社会〉づくりの取り組みは
何をやっているのか**

**相互承認関係をつくる
非認知能力を向上させる
社会に信頼感をつくる**

**人々が自律する
自己肯定感を持てるようになる**

「ことば」を使いこなして「対話」する関係

**曖昧でゆるやかで、
関心をもつ人々が
多重に覆い被さることが必要**

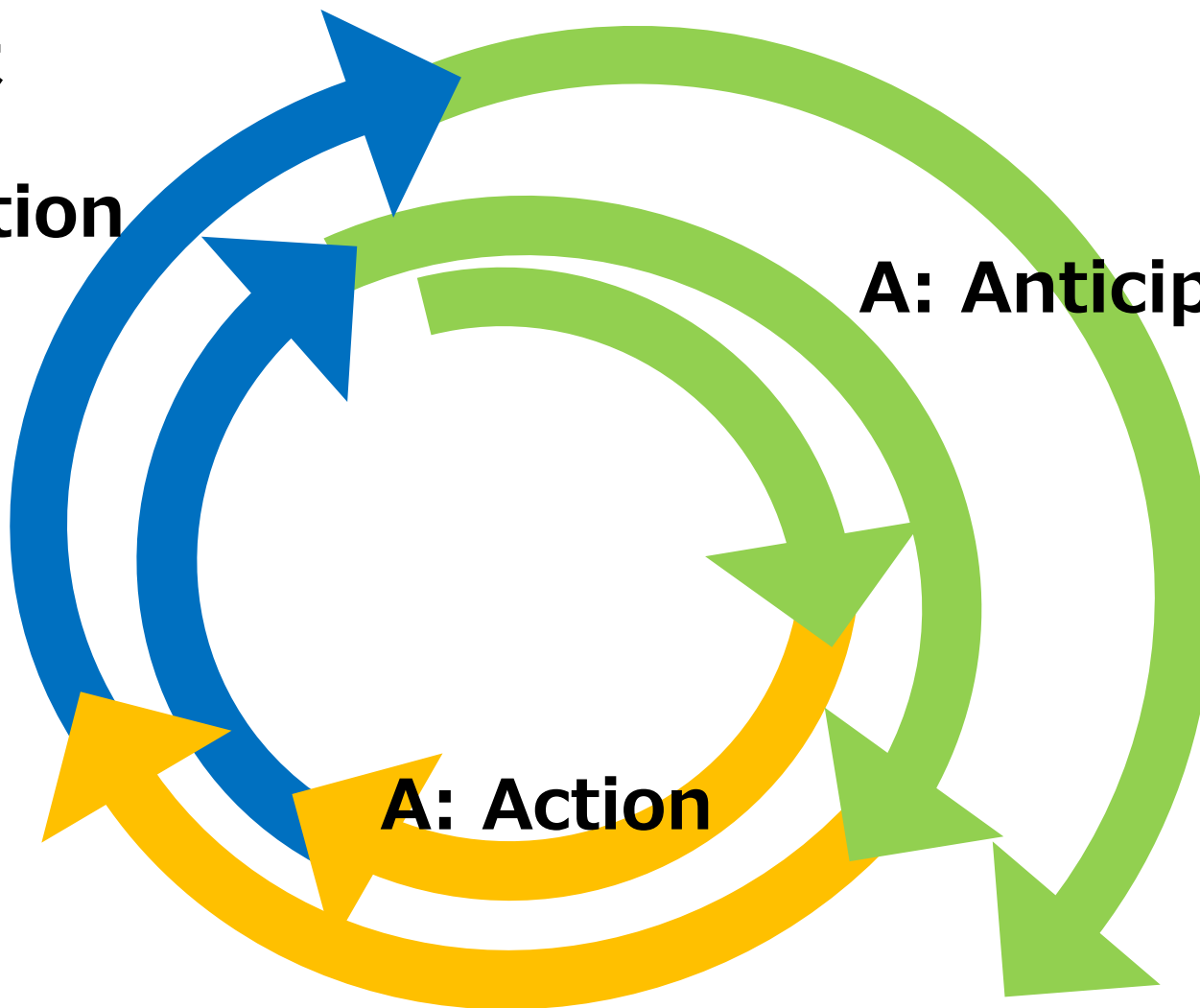


実際は

R: Reflection

A: Anticipation

A: Action



連携・協働・参加



**〈ちいさな社会〉が幾重にも重なる
社会基盤の再生**

**「自治」を発明し直す
つくり・担う**

行政負担が減り、新しい社会への投資が可能となる

9. FOR ALLからBY ALLへ

朝日新聞デジタル > 記事

巨大マンション自治会に中学生役員 13歳の彼女がやってみたいこと

🔒 有料会員記事

村上潤治、山下奈緒子 2022年5月30日 14時00分

シェア ツイート B! ブックマーク メール 印刷

list

2



自治会の役員になった鈴木梨里子さん=2022年5月14日、横浜市磯子区磯子台、村上潤治撮影



1230戸の巨大な自治会の役員に、横浜市の女子中学生が立候補して就任した。市が把握する中で最年少とみられる13歳が担うのは――。

この自治会は、横浜市磯子区に2014年までに完成したマンション群（13棟、3300人）の「Brilia（ブリリア）City（シティ）横浜磯子自治会」。

5月22日に約100人が参加した自治会のオンライン総会で第6期（任期2年）の役員18人が選ばれた。留任は9人。立候補は6人で、その1人が私立中学2年の鈴木梨里子さん（13）だった。



「学び」 = 「よきこと」に気づき、実践する
⇒社会に「共通善」を実践する営み

- Unmute 対話しよう
- Unlearn 学びほぐそう
 - ⇒ Relearn 学び続けよう
- Unlocked 新しい自分とみんなを発見し続けよう
- AAR cycle まずは、やってみよう

**すべての人が主役として
人とともに生きる社会**

10. みんなでしあわせをつくる社会へ

自分が変わると、社会が変わる

恩送り

「長い箸の寓話」

みんなでしあわせをつくる社会へ

そのための、寄り添いと意志決定支援

**誰もが自分の人生の主役になり、
誰もが自分のしあわせの主役になる**

**そのための寄り添いと意志決定支援
〈学び〉を発動し、駆動する力を得る**

すべての人が主役として
人とともに生きる社会
さらに、「生を共にする」社会へ

⇒みんなのしあわせをつくる社会へ

⇐市民後見人の役割